

那覇市において発見された化学弾の可能性のある砲弾について

1. 概要

- ・ 本年9月、沖縄県那覇市で自衛隊が警察からの通報を受け、回収した砲弾7発のうち2発が旧日本軍の92式あか弾の可能性があると判明。(9月4日に防衛省が記者発表。)
- ・ 当該砲弾の発見現場は、丘陵地の林地内の墓地であり、今後、現場の土地改変(丘陵の掘削等)が予定されている。
- ・ 当該砲弾は、土地改変に先立ち実施された、第二次大戦時の遺骨収集作業時に発見されたもので、外観上の特徴から、旧軍92式あか弾の可能性があると判明。
- ・ なお、防衛省によると、あか弾の可能性のある砲弾2発の弾殻は健全であり、自衛隊において、携帯型検知器で化学剤等の検知を行ったが、化学剤等の検知はなかったとのことである。

2. 環境省において実施した措置

環境省では、上記の情報等を踏まえ、緊急の現地確認を行った上で、以下の内容の発見現場における環境調査(大気(壕内)、土壌、周辺地下水)を実施した。調査結果は、現在とりまとめ中である。

○環境調査概要

・ 試料採取箇所

大気…3箇所(砲弾が発見された現場の壕及び近隣壕内)

土壌…5箇所(砲弾が発見された現場及びその近傍)

周辺地下水…7箇所(発見現場から概ね半径500m圏内)

・ 分析実施項目

旧軍毒ガス剤及びその関連成分

(「分類Aの事案に係る環境調査内容について(更新版)」(平成18年2月)に準拠)

3. 今後実施すべき作業の方向性等(案)

発見現場における旧軍の活動に関する情報や地歴に関する情報の収集を行う。

地元自治体の協力を得て、改めて関係者に対し、不発弾等に対する安全対策の徹底を行う。